

験を担いで幸運を

勉強ができて、頭がよくても、才能があっても、努力しても運に恵まれない人、不幸な人はいる。他人から支持され信頼される人間性を持たなければ。それだけでは不十分。運とツキを呼び込むためには自ら信じる験(ゲン)を担ぐのがよい。

商売繁盛おちよぼ様のご利益

三重県桑名市にあるK社の工場。大手電機メーカーからのプラチック部品の注文が途絶えた。売上げに占める割合は5%程度だが、コンスタントにあった受注が切れるのは痛い。

東京から来た飯高社長は「仕様がない」と工場長をなだめた。月末である。前にも行ったことがある。「おちよぼさん」に工場長が語った。おちよぼさん、千代保稲荷神社は岐阜県海津市にあり、桑名からは車で小一時間かかる。地元の工場長は年中参拝しているというが社長はこれが三度目。三十一日の夜八時過ぎ。どこから集まってくるのか広くて長い参道は人混みで前へ進まない。ようやくお参りを済ませ、恒例の串カツで一杯やって帰った。

東京本社に戻って数日後、飯高社長に工場長から電話。「Y電気から注文が来ました。月五千、年間契約です」。例のプラスチック部品の新規注文があったのだ。Y電気も大手だが取引きはあまりない。電話がかかってきて「できるか、やってくれ」の即決だった。注文がなくなり人と機械が遊んでしまふところだった。「困ったな」と思っていたら営業もしないのに、注文が舞い込んだ。「何と運がいいんだらう。おちよぼさんのご利益か」と飯高は思った。前にもお参りした後、いい事があつたような気がする。

工場長に聞くと「私が工場長になれたのも、工場がずつと順調なのもおちよぼさんのおかげだと思つています。私は毎月家族で行つています」と答えた。

それ以後、桑名工場へ行く目的はおちよぼさんに行くことになった。お参りすると確かにいいことがある。理由は解らないが飯高はご利益を信じた。

らハガキが来た。

「先日のおちよぼ様参拝のお骨折りがとうございます。会社へ帰った日、ある得意先からの商品注文が予想以上に多く、これがご利益と思つたところです。お礼参りにも行きます」

同行したある社長は「おちよぼさんは凄いな。あのあとすぐ、辞めてもらいたいと思つてた社員が辞表を持って来て辞めてくれた」と言つた。

またある社長は「翌日、パチンコでアツという間に十数万円儲けた。初めてですよ。社員に言うところ、ご利益をそんなことで使い果たした」と言つた。

建築会社は神の祟りを畏れる

六十年以上同じ町に住んでいる。近くに七、八〇〇坪の広場がある。片隅にお稲荷さん。大人がかがんでくぐる小さい赤い鳥居が付いている。

セルロイド工場ができ広場を壊して困った。廃業して塀が壊れ、また子供の遊び場になった。赤い鳥居のお稲荷さんは元の場所にあつた。二階建ての公営住宅風のアパートが三棟できた。お稲荷さんをよけて建てた。アパートの住人がお供え物をした。

アパートが老朽化し取り壊され、住宅地にありながらこの広い土地は空き地である期間が長い。何年も空き地で草茫茫の時が多い。数日後飯高にN社の山崎社長か

経宮管理講座 288 染谷和巳

さないでください」と叱られました。

「先日のおちよぼ様参拝のお骨折りがとうございます。会社へ帰った日、ある得意先からの商品注文が予想以上に多く、これがご利益と思つたところです。お礼参りにも行きます」

同行したある社長は「おちよぼさんは凄いな。あのあとすぐ、辞めてもらいたいと思つてた社員が辞表を持って来て辞めてくれた」と言つた。

またある社長は「翌日、パチンコでアツという間に十数万円儲けた。初めてですよ。社員に言うところ、ご利益をそんなことで使い果たした」と言つた。

ように。

二年前、広場は整備され、真中に道が造られ、建築住宅の建築が始まった。周りの道に面してと中の道に面して合計十八棟。お稲荷さんは撤去された。

完成間近、売出しの幟が何本も立ち、営業マンの説明を聞く人もいる。

夜、火事があつた。徒歩一分の所なので見に行つた。出来立ての建築住宅が燃え、炎が空を焦がしている。一軒が全焼した。つけ火だそうである。まわりに燃え広がらなかつたのが不幸中の幸い。

人はお稲荷さんのことや火事のことを知らない人だらう。知つていればその家は買わない。

私も含めて近隣の人は、あの家に不幸が起きなければいいがと思つている。

建築土木に関わる人は、地面に感謝し「これからこのように使います。よろしく」とお祓いをする。神社潰しにはお祓いも効かない。

秋葉原からつくばまでつくばエクスプレスが開通し、その地下鉄の上に広い道路を造ることになつた。青井駅前を新しい広い道路が走っている。つぎの六町へ抜ける予定だが、環七で工事が止まつていつながらない。

道路計画の環七の六町側に西加平神社がある。神社を移転しな

金運が上向く穴八幡の御守り

人の幸福と不幸は努力や能力だけでは決まらない。努力しても幸福になれない人がいるし、能力があつても不幸な人はいる。

正月に神社や寺に初詣でして、何だか解らない神仏に向かつて手を合わせる人は幸福になる。神仏に敬虔な心を持つ人が幸福になる。

幸福はお金と深い関わりがある。金運が上向く「一陽来復」は知る人ぞ知る御守りである。この御守りを冬至や大晦日の夜中の十二時ちよぼ様に、その年の恵方に向けて部屋の天井近くの高い場所に貼りつける。それでその一年運がよくなる。

福岡S社の沢柳社長は「お金の流れがスムーズになり楽になつた。この御守りの効き目だと思つ」と言つていた。人に勧められて事務所と自宅に御守りを貼つて数ヵ月後のことである。

東京早稲田の穴八幡宮で、販売している。十センチ程の円錐型の紙筒で「一陽来復」と墨書されている。ただそれだけのもの。一つ六百円以上する。それを十

れば道はできない。道ができないためいつも遠回りする建設会社の社長が言う。「神社の取り壊しが入る仕事など賢明な業者はしませんよ。必ず祟りがある。計画段階で解つていくことです。役人はそういう世間の知恵が欠けているから。もし神社をぶつ壊して工事をすると、たまたま悪徳業者で、欠陥道路になる」。

神社は人が造つたものである。それを人が取り壊すことのごとくに問題がある。神が怒つて罰を下す。だと? 祟り。だと? そんな迷信を誰が信じるか。

その迷信を建築土木会社は信じるから、道路工事を辞退している。その仕事を、予期せぬ不幸な目に会いたくないからだ。

も二十も買つていく人がいる。家族や親類に分けてやるのだらう。これを高いと思う人は買わない。お金の融通がこれだけつくならこんな安いものはないと思ふ人が買つた。

毎年同じ人が同じ数量買いに来る。神社やお寺のお札御守りはいろいろあるが、買うだけでなく、夜中の十二時に天井近くに貼り付けてという面倒くさいことを毎年続けるのは「効果」があるからに違いない。なければ見切つて忘れて去る。

初めに紹介したおちよぼさんやこの穴八幡宮に限らず日本には「私」は「こ」という所が無数にある。自分を幸福にしてくれると信じる。神社仏閣あるいはパワースポットである。

人力の及ばぬ力、神の加護そして天罰、こうした非科学的な現象に畏れと救いを持たない人は不幸になる。自分ひとりの力で生きていくと思ふ自己中心の者に言う。人は人に支えられ、天の力に支えられて生きているのだ。